

「なぜ翼を使わないんだ？」（2022. 12. 11）

「主に望みを置く人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」（イザヤ 40:31）

上掲の御言葉は、主に望みを置く人と、翼を張って上る鷲を重ねている。鷲が大空を自由に飛び廻るように、主に望みを置く人は、新たな力を得て、今まで見たことのない景色を見渡す。これは信仰の翼を働かした者が味わう喜びである。疲れた時、立ち止まっている時、つまずいた時、思い出そう。私たちには翼があるのだ。



テレビの CM は、面白いなと思っても、あまり長く心に残るものはない。制作意図がその時々注目を引くことにあるからであろう。その点、私の中に今でも深く残っている CM がある。20 年前の「つばさ証券」の CM だ。

翼の生えた天使らしき男が悪党に追い駆けられている。宮殿らしき建物の中を逃げ回り、とうとう行き止まりに追いつめられ絶体絶命。その時、上を見上げると青い空。行き止まりではない。空という逃げ道がある。観念しろという追手。男には翼がある。しかし男は両手を上げて言った。降参です、と。そんな映像をテレビで見っていたおじさんが言う。「なぜ翼を使わないんだ?!」—つばさ証券—。（現在は合併し、三菱 UFJ 証券になっている）

なぜ翼を使わないんだ? 「つばさ証券」の CM としてとてもユーモアとアピール性があり、今でもこのフレーズが響いてくる。それは、なぜ信仰の翼を働かせないんだ? とイエス様から言われているように感ずるからでもあろう。私たちも CM の男のように追い詰められ、行き場を失う時がある。でも、目を高く上げると、大空があるではないか。イエス様の御言葉が聞こえてくる。「信じていない者ではなく、信じる者になりなさい。」これは、疑い惑うトマス言われたイエス様の御言葉であるが、信仰の翼を働かせなさい、と優しく私たちに響いてこないだろうか。

早いもので今年も待降節に入り、今日は第 3 の「喜びのろうそく」が灯った。タイムスリップして御子イエス様のご降誕の場にひざまずき、目を高く上げ、再び来たり給う主イエス様を待ち望みたい。12 月 24 日(土)はピアニスト・伊藤伸氏をお迎えして、3 年ぶりに一般の方々に開かれたイブ礼拝を捧げる。流麗なピアノのメロディーに乗せて、御子の降誕の喜びと主の再臨の希望が来会者の心に届くよう、信仰の翼を働かせて、祈りましょう。